

災害時も助け合おう！

申し合わせでは、ホーム側で災害が発生した場合、近隣の三つの住民グループ

西東京市西原にある特別養護老人ホーム「クレイン」(鶴田茂男理事長)と周辺の住民グループが二日、大地震や火災が発生した場合に相互に助け合おうという申し合わせを締結した。橋渡し役になった保谷消防署によると、すでに都内では同じような申し合わせが約五百件結ばれているが、西東京市内では初めてという。



災害時の相互応援の申し合わせを結んだ特養ホームの関係者と周辺住民

西東京市 特養と地域住民が申し合わせ

プの三十五人のうち可能な人たちが呼びかけ合ってホームに参集し、職員と協力して入所者の避難誘導にあたる。一方、ホーム側には二十四時間体制で勤務している職員がいることから、施設周辺にも目配りをし、不審人物を見かけたり異常に気づいた場合には、すぐに対処することになっている。

同ホームには、夜間で六十人、日中では約百人の高齢者が滞在しているといい、ホーム側でも「お隣どうしで助け合うことができるのは心強い」と話している。

まず手始めとして今月九日、住民側の代表五人と病院の職員六、七人が東京消防庁立川防災館で開かれる消防訓練に合同参加する予定だという。